

2001 年度 経済原論 : 期末試験

2001 年 7 月 13 日(金)実施

< 解答・採点基準 >

[第 1 問]

$$F+PX+MY = 5000$$

不等号は等号でも可、式は変形されていても可

プラン A : X 軸との交点 = 120、Y 軸との交点 = 600

プラン B : X 軸との交点 = 125、Y 軸との交点 = 500

A が得なのは、交点よりも左側・・・5 点

交点は $(X, Y) = (100, 100)$ なので、メールの送受信件数 100 以上・・・5 点

厳密に得になる場合だけを考えると、101 以上としても正解

また「使い切る」ことにこだわって、105 以上とした場合も正解 $(X, Y) = (105, 99)$

[第 2 問]

$$\frac{1}{6} \times 100 + \frac{2}{6} \times 40 + \frac{3}{6} \times 0 = \frac{180}{6} = 30 \text{万円}$$

分数で計算せず、29 万 9999... 円のようにってしまった場合は不正解

$$\frac{1}{6} \times \frac{100^2}{100} + \frac{2}{6} \times \frac{40^2}{100} + \frac{3}{6} \times \frac{0^2}{100} = \frac{1}{6} \times 100 + \frac{2}{6} \times 16 = \frac{132}{6} = 22$$

単位は「億」だが、「万」でも正解

金額でなく効用なので、「円」は不要だが、あっても正解

賭けの期待値と等しい 30 万円を確実に手に入れたときの効用は $30^2/100=9$ ・・・5 点

不確実な場合の効用の期待値 22 よりも小さいから、危険愛好的・・・5 点

不確実に 30 万円の場合の効用と確実に 30 万円が期待される場合の効用を比較するのが正解
誤った根拠で、「危険愛好的」のみ正しい場合は 2 点

[第 3 問]

公共財

非排他性（共同消費の性質） / 非排除性

1 つだけの場合には 3 点

実質利子率

物価の変化（または購買力）を考慮していること・・・3 点

実質利子率 = 名目利子率 - インフレ率・・・2 点

機会費用

犠牲にした機会の価値のこと

インセンティブ

行動・選択・意思決定の動機付け、餌、誘引のこと

単に「誘引」だけは不正解

比較優位

他者や他国と比べて、絶対的には劣っていても、相対的に得意であること

「相対的」の意味が不明瞭な場合や説明が不十分な場合は不正解

[第 4 問]

価格 30、取引量 80

需要曲線と新しい供給曲線を連立させて解くという方針が採用されていれば正解

$$\text{消費者価格 } P = 30 + \frac{2}{3}T, \text{ 取引量 } 80 - \frac{2}{3}T, \text{ 生産者価格} = \text{消費者価格} - T \quad 30 - \frac{1}{3}T$$

消費者価格と元の価格 30 の差が消費者負担、生産者価格と 30 の差が生産者負担

このことがわかっていれば正解

$$\text{正答は消費者 } \frac{2}{3}T, \text{ 生産者 } \frac{1}{3}T$$